

米国 所得の増加等を背景に小売は加速(16年 4 月小売売上高)

発表日：2016年5月13日(金)

～自動車を含む幅広い業種で拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
			除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン
15/09	+0.1	(+2.1)	▲0.3	+0.9	+1.4	+0.5	▲0.1	▲0.4	▲0.5	▲4.4
15/10	▲0.0	(+1.6)	▲0.0	+0.2	▲0.1	+1.0	▲1.2	▲0.2	▲0.8	▲1.2
15/11	+0.3	(+1.6)	+0.2	+0.6	+0.5	▲0.4	▲0.9	+0.1	+0.9	▲2.0
15/12	+0.4	(+2.8)	+0.5	+0.7	+0.1	+0.5	▲2.0	+0.1	▲0.2	▲0.4
16/01	▲0.5	(+2.8)	▲0.4	▲0.8	▲1.1	▲0.5	+0.5	▲0.3	▲0.0	▲3.1
16/02	+0.3	(+3.6)	+0.2	+0.6	+0.7	+0.4	▲0.1	▲0.2	+0.6	▲5.2
16/03	▲0.3	(+1.7)	+0.4	▲2.0	▲3.2	+0.2	+0.6	+0.6	▲0.8	+3.1
16/04	+1.3	(+3.0)	+0.8	+2.0	+3.2	+0.7	+0.5	+1.1	+1.0	+2.2

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

4月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+1.3%と増加に転じ、4月のコア小売売上高は同+0.8%に加速した

16年4月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+1.3%（前月同▲0.3%）と市場予想中央値の同+0.8%を上回った。内訳をみると、建設資材が減少に転じたほか、株価の影響を受け易い百貨店など一般小売は横ばいにとどまった。また、スポーツ用品・本・趣味用品が前月比+0.2%と前月と同率となった。一方で、自動車・同部品、食品・飲料、衣料品、飲食店、通信販売が増加に転じたほか、家具が加速した。さらに、家電、薬局、ガソリンスタンド、その他小売は鈍化したものの、高い伸びを維持した。4月の小売売上を取り巻く環境では、雇用統計で確認できたように、雇用者所得の増加ペースが加速したほか、マインドが安定、金利が低下した。このような中で、4月は企業の積極的な販促もあり自動車販売が増加した。ガソリン消費量も低価格を背景に増加を続けている。また、気温の異常な低温など急激な変化が衣料品販売を支えた。さらに、住宅販売の堅調が家具、家電販売を押し上げた。ドルの下落は、NYなどの観光需要の回復に寄与していると考えられる。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.8%（前月同+0.4%）と市場予想の同+0.5%を上回った。食品・飲料、衣料品、飲食店、通信販売が増加に転じたほか、家具が加速した。また、家電、薬局、ガソリンスタンド、その他小売は鈍化したものの、高い伸びを維持した。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.8%（前月同+0.1%）と加速した。食品・飲料、衣料品、飲食店、通信販売が増加に転じたほか、家具が加速した。また、家電、薬局、その他小売は鈍化したものの、高い伸びを維持した。

4月分の公表前に年次改定が行われ、昨年末が下方修正された一方で、足下の数値は上方改定された。結果、四半期でのコア小売売上高は、4月に1－3月期比年率+4.3%、1－3月期が前期比年率+3.2%（年次改定前同+2.3%）、10－12月期が前期

比年率+2.3%（年次改定前同+2.7%）と10-12月期を底に徐々に加速している姿に改定された。

今後のコア小売売上は、5月に反動がでるとみられるが、雇用・所得の拡大、緩やかな金融環境、マインドの安定、低いガソリン価格等を背景に、緩やかな拡大基調を維持する公算が大きい。

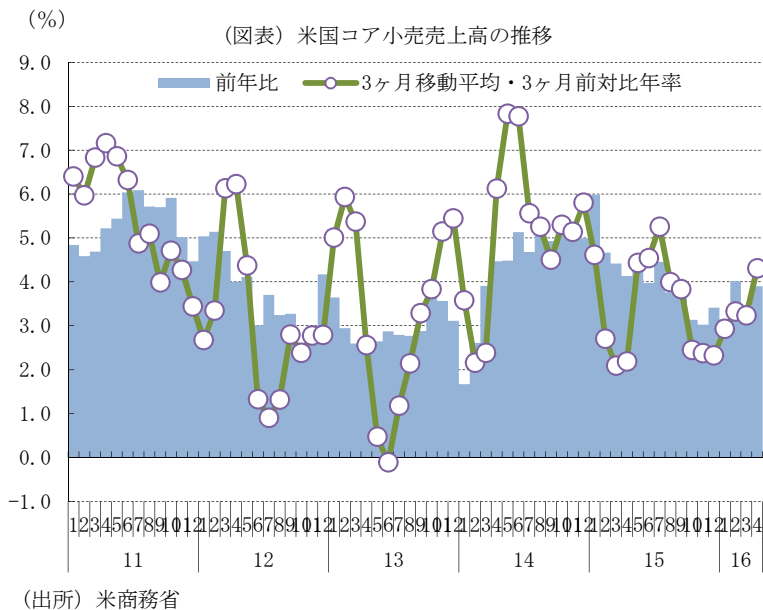
4月の小売・飲食サービス売上高では自動車・同部品が最大の押し上げ

4月小売売上高の前月比（+1.26%）の寄与度をみると、マイナス寄与の業態は、建設資材の▲0.07%のみ。一方、プラス寄与の業態では、自動車・同部品が+0.66%と最大の押し上げ寄与となった。他では寄与度の大きい順に、通信販売が+0.21%、ガソリンスタンドが+0.16%、食品・飲料が+0.12%、薬局が+0.05%、衣料品が+0.05%、その他小売りが+0.04%、飲食店が+0.04%、家電が+0.01%、家具が+0.01%と続いた。なお、百貨店を含む一般小売、スポーツ用品・本・趣味用品は0.00%。

コア小売売上高は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+4.3%と減速

小売売上高のモメンタム（3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）をみると、年次改定の結果、15年末にかけて弱まり、その後徐々に強くなっている。変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、価格上昇に伴うガソリン売上の増加等により+2.5%（前月+1.2%）とプラス幅を拡大した。また、小売売上高の基調を示すコア小売売上高（自動車・ガソリン・建設資材を除く小売・飲食サービス売上高）は、+4.3%（前月+3.2%）と加速しており、コア小売売上高のモメンタムは強まっている。

【年次改定後】



【年次改定前】

